

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	情報科学・工学セミナー	
科目基礎情報							
科目番号	0023		科目区分	専門 / 必修			
授業形態	演習		単位の種別と単位数	履修単位: 1			
開設学科	創造工学科 (情報科学・工学系共通科目)		対象学年	4			
開設期	後期		週時間数	2			
教科書/教材	担当教員が必要に応じ提示する。						
担当教員	阿部 司, 稲川 清, 大西 孝臣, 中村 庸郎, 中村 嘉彦, 原田 恵雨, 三上 剛, 三河 佳紀						
到達目標							
1. 技術者として必要な一般常識を理解し、適切な文書で自己PRができる。 2. 資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。 3. 自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。 4. 自分の考えを適切にまとめて、明解な文書として記述できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
1. 技術者として必要な一般常識を理解し、適切な文書で自己PRができる。	技術者として必要な一般常識を理解し、適切な文書で自己PRができる。		技術者として必要な一般常識を理解し、基本的な文書で自己PRができる。		技術者として必要な一般常識を理解することが困難で、自己PRができない。		
2. 資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。	資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。		資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、基本的な問題の演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。		資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解することが困難で、問題を解くことができない。		
3. 自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。		自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った基本的な発表と討論ができる。		自分の考えをスライドに纏めることが困難で、スライドを使った発表と討論ができない。		
学科の到達目標項目との関係							
I 人間性 II 実践性 III 国際性 CP2 各系の工学的専門基礎知識、および実験・実習および演習・実技を通してその知識を社会実装に応用・実践できる力 CP4 他者を理解・尊重し、協働できるコミュニケーション能力と人間力							
教育方法等							
概要	講義・実験で扱う機会の少ない一般的な知識・技能について取り上げ、演習を中心として授業を進める。この科目では、第15週に企業から講師を招聘し、社会人として必要な知識・技能、進路選択における情報等に関する講演を行う。						
授業の進め方・方法	技術者として必要な一般常識・プレゼンテーション・テクニカルライティングについて学び、社会が必要としている技術レベルを知ること、これまで授業で学んできた科目の実社会における位置づけを理解する。 達成目標1、2、4に関しては、達成目標毎に課題を与え、レポートにより評価する。 達成目標3に関しては、演習時の評価とする。 試験は実施しない。 各課題のレポートの評価とプレゼンテーション演習の評価に対して、テーマ毎の授業時間数に応じて重みをかけて平均をとり、それを総合評価とする。合格点は60点である。課題は90%の重みで評価し、詳細な重みは、プレゼンテーション演習を45%、自己分析を15%、テクニカルライティングを15%、言語処理と数的処理を15%とする。また、専門知識を小テストにより10%の重みで評価する。						
注意点	授業はホームルームもしくは実習室で行うので、授業ごとに講義室を確認すること。 授業においては適宜資料・プリントを配布する。ノートとともに、資料・プリントを収納・整理するためのファイルも用意すること。 授業の際に必要なものについては別途連絡する。 講義予定に変更がある場合は事前に連絡するので注意すること。						
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容	週ごとの到達目標			
後期	3rdQ	1週	情報科学・工学セミナーガイダンス	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		2週	プレゼンテーション演習	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		3週	プレゼンテーション演習	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		4週	プレゼンテーション演習	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		5週	プレゼンテーション演習	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		6週	プレゼンテーション演習	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		7週	プレゼンテーション演習	自分の考えをスライドに纏めることができ、スライドを使った発表と討論ができる。			
		8週	テクニカルライティング	自分の考えを適切にまとめて、明解な文書として記述できる。			
	4thQ	9週	テクニカルライティング	自分の考えを適切にまとめて、明解な文書として記述できる。			

		10週	専門知識(情報処理技術者試験)	資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。
		11週	就職ガイダンス	技術者として必要な一般常識を理解し、適切な文書で自己PRができる。
		12週	自己分析と自己PR	技術者として必要な一般常識を理解し、適切な文書で自己PRができる。
		13週	言語処理と数的処理	資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。
		14週	言語処理と数的処理	資格試験、就職試験等で出題された問題の演習を通して、社会が求めている技術的知識、技術水準を、演習を通して理解し、同水準の問題を解くことができる。
		15週	企業技術者講演会	企業からの講師による講演を受講し、社会人として必要な知識・技能や自らの進路について考えることができる。
		16週		

評価割合			
	課題	小テスト	合計
総合評価割合	90	10	100
基礎的能力	65	0	65
専門的能力	25	10	35
分野横断的能力	0	0	0